

## 和光市景観計画等検討委員会（第4回）

### 議事要旨

日 時：平成21年1月15日（木）14：00～16：30

場 所：404会議室

出席者：山中知彦（委員長）、本橋淳男、富岡征四郎、鍵和田美津子（副委員長）、松田廣行、渡辺佳雄（敬称略）

欠席者：波間貞、皆川美雪（敬称略）

事務局：大寺建設部長、荒井建設部審議監、小池、加藤アオイ環境㈱大橋、倉地、佐藤

傍聴者：3名

#### 配付資料（事前配付）

- ・ 資料1 和光市景観計画（素案）
- ・ 資料2 和光市景観計画等検討委員会（第1回・第2回）の意見・提案
- ・ 和光市景観計画等検討委員会（第2回）議事要旨
- ・ 和光市緑地保全計画（素案）一部抜粋

#### 1. 現地視察を終えて

- ・ 印象に残ったのは、白子山脈である。また、荒川の桜堤から午王山を見たとき、市の北側をみたときには、海から海岸線を眺めるような印象を受けた。都心からこれだけ近いところで、畑などの農地が広がり、段丘の緑の帯がつながっているのが見えたのは、印象的で、和光らしいと感じた。また、一つひとつの湧水、それを取り巻く森は、予想以上に鬱蒼としている。緑については、景観なのか、環境なのかは単純に仕分けはできないと思う。
- ・ 清掃センターの近辺の荒れた農地は、誇れるような場所ではないと感じた。広いところに、学園を誘致するとぐっとかわるだろう。白子宿の大坂ふれあいの森を蛍の里としたいと感じた。午王山は、見ただけでは単なる丘だったが、やはり和光市はよいところだと思った。駅前については、整然とした景観づくりができないだろうか。
- ・ 和光市の景観は、塊や連なりがなく、景観が点在しているという感じがした。例えば、斜面林は、和光市の東西につながっていたが、今は分断され、点在されてしまった。
- ・ 午王山からは、雪のかぶった男体山や谷川岳、筑波山などが見える。和光高校の前に、資材置き場ができてしまった。水道道路沿いには、ごみを積んだところもあった。清掃車の置き場や駐車場などもある。放っておくと、周辺の景観に溶け込んでしまう。最大多数の地元住民が受け入れられるような景観をつくっていきたいと思う。
- ・ 景観を考えるうえで、分断されたもの、点在したのものがあるということだが、これから

は意図的に作っていかなければいけないだろう。残さなければいけない自然、人工的に造るものについて配慮が必要だと思う。

- ・ 白子の緑はすごいものだと改めてイメージしている。景観の意味合いで和光の緑を考えると、あるものを極力保全するとともに、できるものなら増やしていく。既に宅地化された部分も緑化を進めて、斜面林を連続させるようにすることができるとよい。越戸川、新河岸川の支流は、都心よりでは首都高速高島平付近には緑の森が広がっているのも、そのような施策ができるとよい。都市的なところでは、駅前においてシンボリックなもの、和光だなどおもうようなものを誘導していくべきではないか。また、白子宿の緑と歴史のからんだ地域は、伝統的地区というのを押し出し、意図的に残すべき資産だと思った。

## 2. 景観計画の検討について

<資料1「和光市景観計画（素案）」の全体構成について>

- ・ 全体構成を見ると、3章以降の行為の制限、景観重要建造物や景観重要樹木、屋外広告物に関する制限、景観重要公共施設については、景観を作るための技術的な道具であり、行政による景観形成の誘導のあり方を示している。景観計画策定後、市民が関わるべきこととして、行政に任せるのではなく、市民協働や市民参加で景観づくりを推進する制度を盛り込むことができる。川口市の景観モニター制度では、モニターとして選ばれた市民がまちの景観を見ていき、その成果を全市に広げていくものである。また、プロジェクト単位で、市民が関わって景観づくりをしていくこともできるかもしれない。景観に関わる市民活動を応援する施策もある。
- ・ 景観計画の目標として、東京近郊においてこれだけの緑の多いまち、これまでの緑を守る、もっと緑を増やすという目標を記載できないだろうか。和光市全体で、緑の率を何パーセントに上げるなど、より具体的な目標値があるとよい。
- ・ 2章の景観形成方針と、3章の行為の制限の内容についてつながりがないと感じる。ゾーン別に景観形成をどうするのかという方法論があり、そのための規制を考えるというのが妥当な流れなのだろう。また、すでに取組まれている、駅前通りや、白子など、市域の特徴的な景観ゾーンについて、どのように誘導しているのかを示さなければ、その先の規制が生きてこないだろう。2章と3章の間でもう少し具体的に書き込み、最終章として、景観づくりを進めていくスケジュール又はシナリオを示してはどうか。
- ・ 全般的に読んで、抽象的な言葉が多い。森林、斜面林、建物などを表現するが、抽象的な表現だけでなく、具体的に示すべきだと思う。
- ・ 景観計画の理念についての記述がない。理念がなければ、景観づくりに対する課題が浮き上がってこないと思う。
- ・ 理念があって、課題を出すのと、現況があって課題があり、それを解決するための理念という流れの2とおりがある。13Pの課題においては、序章と2章のつながりを着ける

- こと。
- ・ 和光市の市民は、どのようなまちづくりをしたいのか、どのような景観にしたいのかを考えていくべき。しかし、この検討委員会で、答えが出せるかは疑問。みなさんが、それぞれのどのような考えを持つのか出し合うべきではないか。
  - ・ 第1回目の検討委員会のときに、広く市民の意見を聞いて、市民が何を求めているのかを聞き出しましょうという意見があった。それには、NPO や学校に行き、実際に意見を聞くことが必要。愛着や誇りは、行政から出るものではなく、市民からでるべきものではないか。そのために、広く市民の意見を聞くことが必要だ。
  - ・ 景観計画には、市民の意見を聞きながら景観づくりを進めていくことを位置づけるべきである。

#### <資料1「和光市景観計画（素案）」の序章の検討>

##### <2P「3 本市における”景観”のとらえ方」>

- ・ ここでは、和光市の具体的な風景、眺め、後世に伝えたいものをここに書かないといけない。そのために、この検討委員会において、現時点で市民との対話集会を開く、あるいは我々がでかけていって、彼らが何を求めているのかをわかったうえで、和光らしさ、愛着とは何かを知る必要がある。
- ・ 後世に伝えるべきものは、今までの議論から書くことができるのだろうか。
- ・ 自然的景観と人工的景観の調和が大切だ。そのために制限が必要になっていく。景観計画には、自然的景観を保護する、さらに自然的景観を高める景観づくりを加えてはどうか。他の自治体とは違う景観づくりを進めることができるのではないか。
- ・ 和光らしさのある個性的なまちなみ、魅力あるまちへの愛着や誇りという記述について、よいキャッチコピーがあるとよいと思う。
- ・ 人工的景観は、作るだけでなく、守るものもあると思う。
- ・ 場所的な特徴を示し、個性のあるまちという打ち出しをしてみてもどうか。はじめから、調和とすると、自然と人工物が横に並んでいるイメージである。
- ・ 和光市は、緑、環境がとてもよいところ。環境についても景観計画のなかで触れてみてはどうか。次世代に誇れる環境を入れてみてはどうか。
- ・ “調和”について、定義が必要なのではないか。それぞれが考えていることが違う。

##### <3P「4 各主体の役割」>

- ・ 事業者の立場について、景観づくりに努める、協力するといったことにくわえ、主体的に働き、このまちの景観を作り上げていくべきだと思う。
- ・ 午王山斜面林の所有者に掛かる固定資産税は70万円程だと聞いた。景観の要素を担う斜面林の維持のために、個人に負担を強いるのはいかなものか。

- ・ 個人の負担などに対して、市は代償をどうするのかを一切でていない。このようなことに対して、市が代償計画を考えているということを書いておかないといけないだろう。
- ・ 市と市民、地権者が一緒にやらないと進まないと思う。

< 4～5P 「5 本市の景観特性と課題」 >

- ・ 歴史的変遷がわかるような地図を入れられないだろうか。
- ・ 5万分の1の地形図は、過去からとってある。並べてみると変遷がよくわかる。
- ・ 和光市の景観が破壊された歴史がある。和光市の人口の推移と緑との関係があると思う。今後は、産業、交通網、土地利用が変わっていくだろうが、景観をあまり変えてはいけないと思う。このようなことが、和光市の景観づくりの方針につながってくると思う。これから30年後に和光市はどうなっていくのか、どう変わるのかを踏まえたうえで、和光市の発展を考えるべきではないか。そのために、和光市が地権者に対する補償をどうするかということも考えられてくる。
- ・ 4Pで、歴史的な推移を入れるが、そこに人口の推移も書き込んではどうか。
- ・ 6年間でかなりの緑地が減った。また、和光市は、23年度から人口増が横ばいになってくるという。将来の推計人口を示してはどうか。
- ・ 今後の景観づくりを考えるうえで、参考としてふさわしいデータを掲載すればよい。
- ・ 「コラム：郷土の偉人を輩出した和光市」について、和光市の景観づくりに貢献した人としてある方を掲載したいと思うが、いかがか。
- ・ 和光市の景観づくりに貢献した人としては、その方以外にも多数の人が考えられ、誰を掲載するかの選別の問題が生じてくるので、掲載しない方がよい。
- ・ 和光市の偉人の掲載については、和光市の景観の根幹を作った方がいるのであれば記述してもよいが、偏りが出るのはよくない。
- ・ 「東京近郊の住宅都市」という特徴を記述しているが、住宅都市及び返還された基地跡地への研究施設のあるまちが特徴なのではないか。しかも一つだけでなく、集合されたまち。理化学研究所、税務大学校、司法研修所などを指す。しかも、広大な敷地にあって、景観を形成している。広大な敷地を利用した研究施設のあるまちといったことを加えてもらいたい。

< 8P 「(4) 景観要素別の現況(人工的要素)」 >

- ・ ランドマークとなる建物としては、本田技研の世界本社の社屋、その周辺、理化学研究所、税務大学校などの名称を入れるべきである。自然との調和の一つとして記すべき。
- ・ さまざまなものがあるので、例えば、景観賞をもらっているものは入れられるかもしれない。

< 10P 「(5) 景観要素別の現況(暮らし・歴史文化的要素)」 >

- ・ 伝統も景観だろう。鍋合戦は、景観になりつつあるのかもしれない。住民が参加し、まちおこしあるいは伝統文化を守る活動をしていくことも景観づくりの一つかもしれない。また、高島平や朝霞で行われている夏の花火なども考えられる。
- ・ 和光市では、市民が主体となって行っている活動は、他市に比べると、特筆されるべき事項もあるだろう。「ウ 地域での景観づくり」の記述内容は、協働による景観づくりを強調するためには、むしろ 12P で紹介すべきではないか。

#### < 12P 「(6) 景観に対する市民の意識」 >

- ・ 市民意識調査結果は、市民の和光に対する意識調査の結果であり、景観のものではないと思う。市の位置付けに対する意識であり、景観に対する意識ではない。正確に記述するか、削除すべきである。
- ・ 市民意識調査から見る、景観に対する市民の意識といった表現になるかもしれない。

#### < 13P 「(7) 景観づくりに当たっての課題」 >

- ・ 残土の問題については、課題として触れていない。阻害要因を認識すべきではないか。

#### < 資料 1 「和光市景観計画（素案）」の第 1 章・第 2 章の検討 >

- ・ 16P～20P の「3 景観づくりの方針」では、具体的な表現が必要。田園と共存する景観を形成しますとあるが、どういうことなのか。例えば、人口密度の規制ができるのか。土地利用の規制、住宅地の開発といった規制があってはじめて、実現できるのではないか。もっと具体性のある景観づくりの方針を立てるべきではないか。
- ・ 16P の「(1)変化に富んだ地形の上に成り立つ基調景観の形成」と、22P、23P の「(2)ゾーン別の景観形成方針」の内容が、重複している。両者を併せるとわかりやすいと思う。また、22P、23P の記述をもう少し具体的に書いてはどうか。
- ・ 18P の「(3)景観軸の形成」に記述されている眺望景観軸は、とても重要だと感じている。ここでは、眺望軸からの景観をどうするかは書いてあるが、一方、周辺から眺望軸を見ることが大事なのではないか。遠くから、眺望軸の連続性を見ることができる。眺望軸において、眺めることができるとともに、眺められることを記載すべき。

#### 2 . その他

- ・ 第 5 回景観計画等検討委員会は、2 月 17 日 14 : 00 から、401 会議室で開催する。第 3 章以降について議論を行う。
- ・ 本日議論した序章から第 2 章までで意見がある場合は、事務局に提出すること。

以 上